

東京都現代美術館(1)

| 事業名 | 会期 | 概要 |
|---------------------------------|-----------------------|---|
| 「ライゾマティクス_マルチプレックス」 | 2021年3月20日 ～6月20日 | ライゾマティクスは、2006年の結成以来、常に人とテクノロジーの関係を探求しています。世界的に活躍するアーティストであるビョーク、スクエアプッシャー、Perfume、狂言師・野村萬斎や研究者らとのコラボレーションに加え、多様な視覚化やスペキュラティブなプロジェクトを通して、技術と表現の新しい可能性を追求してきました。斬新なインパクトを持つその時間/空間的表現は、国際的に高い評価を得ています。本企画はライゾマティクスの設立15周年を契機とする本格的個展であり、オンライン上にもハイブリッドに展開する新作やアーカイブを通して、絶え間なく変化する世界と同期する彼らの卓越した試みを呈示します。 |
| 「マーク・マンダース -マーク・マンダースの不在」 | 2021年3月20日 ～6月20日 | 彫刻や詩、単語、オブジェ等を用いたインスタレーション作品によって国際的に評価の高い現代美術作家、 マーク・マンダース(1968-、オランダ、フォルケル生まれ、ベルギー在住) の国内美術館における初個展です。初期の重要な作品や近作により、展示する空間に応じた(当館オリジナルの)スケール感のあるインスタレーションを構成します。時間が止まったかのような独特な作品空間と詩的な彫刻を通して、 虚構と実在を問うマンダース作品の魅力 を十分に体験していただく機会となります。 |
| 「MOTコレクション コレクションを巻き戻す」 | 2021年3月20日 ～6月20日 | 東京都現代美術館のコレクションの中には、「現代美術」と聞いて思い浮かべる時代を遥かに遡るような作品があります。「コレクションを巻き戻す」と題して、「東京府美術館」時代の収蔵品から東京都現代美術館の開館に向けて収集された大型の海外作品までを展示し、広い時代と地域にまたがる多彩なコレクションの歴史を紐解きます。 |
| 「GENKYO横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？」 | 2021年7月17日 ～10月17日 | 日本を代表するの現代美術家の一人、 横尾忠則(1936-) の大規模な個展。絵画を中心に初期のグラフィック・ワークを加えた豊富な作品によって、その芸術の全貌を明らかにします。横尾は、すべての人間の魂のふるさと「原郷」から汲み上げた、豊かで奔放なイメージの世界「幻境」を、数多の独創的な絵画に描き出してきました。本展は、そうした横尾の「現況」にも触れる好機となります。 |
| 「MOTアニュアル2021」 | 2021年7月17日 ～10月17日 | 異なる文化や表現領域が混合する空間としての東京に拠点を置く美術館ならではの視点から、現代美術の一側面を切り取るグループ展。単なる現況報告ではなく、そこから問題提起を行い、議論の出発点を提供することで、現代美術領域のさらなる活性化に寄与することを狙います。MOTアニュアル2021では 日本国内の近年の傾向をアジア地域の大きな流れの中で捉え、アジア、日本の若手作家の近新作の意義と魅力を紹介 します。 |
| 「MOTコレクション」 | 2021年7月17日 ～10月17日 | われわれを取り巻く社会や同時代を鮮やかに映し出す、選りすぐりの現代美術を紹介し、美術のあり方や可能性を再考します。 |

※この内容は2021年2月8日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都現代美術館広報担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1

電話 03-5245-1134 FAX 03-5245-1141

<https://www.mot-art-museum.jp>

【お問い合わせ受付】10時～18時(美術館開館日)

【開館時間】10時～18時

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、展示替え期間、年末年始

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。(最新情報は公式サイトでご確認ください)

東京都現代美術館(2)

| 事業名 | 会期 | 概要 |
|-----------------------|----------------------------|---|
| 「TOKYO ART BOOK FAIR」 | 2021年11月頃 | TOKYO ART BOOK FAIR（東京アートブックフェア）は2009年に創設し、2019年から現代美術館で開催しています。展示室では、国際的に活動を展開しているブックメーカーや個人で活動を行う若手の作家など多様なアートブックシーンを紹介。あわせて、エントランスや講堂などで出版社、ギャラリー、ブックショップ、企業、アーティスト・グループ、個人などによる希少な書籍等を販売。 次世代アートシーンの育成、若い才能の発掘、アートブックを通じた国際交流の場の創出 とともに、 広範な方々が気軽さや祝祭感の中で初めて現代美術に触れるひとつの契機 となることを目指します。 |
| 「アトリウム・プロジェクト」 | 2021年11月以降 | 通常の展覧会のフォーマットには収まらない現代美術の新たな動向やプロジェクトを積極的に紹介する企画。 ダンス、音楽、パフォーマンスなどの要素を取り入れた作品の発表、収蔵作品を含む通常の展示では公開しきれないような作品の紹介、長編映像の上映会、アーティストによるワークショップなど多彩なプログラムを提示し、作家たちに幅広い活動の場を提供するとともに、観客に対し開かれた美術館を目指します。 |
| 「クリスチャン・マークレー展」 | 2021年11月20日 ～2022年2月23日 | アートと音楽、視覚と聴覚の結びつきを、文化史も含めた複数の角度から分析する作品を世界各国で発表し、 2011年にはヴェネツィア・ビエンナーレで金獅子賞を受賞 するなど 現代美術の最も影響力を持つ作家の一人 であるとともに、 ターンテーブル奏法のパイオニア として、音楽シーンにおいても重要な位置を占める クリスチャン・マークレー(1955-) の美術館における 日本初の個展 を開催します。「トランスレーション（翻訳）」をテーマに、情報やメディア間交通や、マンガや実験音楽など日本文化からの影響といった側面から、マークレー作品の魅力に迫ります。 |
| 「Viva Video! 久保田成子展」 | 2021年11月13日 ～2022年2月23日 | 継続して取り組んでいる、歴史的な現代美術動向についての検証を行う展覧会として、このたびは、 1960～90年代の現代美術動向に参画した久保田成子(1937-2015)の回顧展 を開催します。「 ビデオ彫刻 」と呼ばれた久保田成子の立体作品や映像作品は、 現代のインスタレーションの先駆け として多くの表現者に影響を与えました。主要作品を中心に、記録写真や資料、交流のあった同時代作家の作品などをあわせて展示し、作家の制作活動、表現、人物像を掘り下げて紹介します。誰もが映像制作ができる時代となった現在につながるメディアアートの課題を検証するよい機会となるでしょう。 |
| 「ザ・ユージーン・スタジオ展」 | 2021年11月20日 ～2022年2月23日 | 現在、新型コロナ感染拡大防止対応として視覚表現のオンライン展開、リモートによる鑑賞共有等が注目され、本来、表現の背後に潜むべき技術が過剰にクローズアップされています。このような流れのなかで、 ヒドゥンデバイス(技術・装置が顕在化していないこと)に着目し作品制作をつづけるザ・ユージーン・スタジオ の作品に触れ、新たな表象の回路を体験しながら、わたしたちが日常や情動を共有する場について考察します。 |
| 「MOTコレクション」 | 2021年11月13日 ～2022年2月23日 | われわれを取り巻く社会や同時代を鮮やかに映し出す、選りすぐりの現代美術を紹介し、美術のあり方や可能性を再考します。 |

※この内容は2021年2月8日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都現代美術館広報担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1

電話 03-5245-1134 FAX 03-5245-1141

<https://www.mot-art-museum.jp>

【お問い合わせ受付】10時～18時（美術館開館日）

【開館時間】10時～18時

【休館日】月曜日（祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館）、展示替え期間、年末年始

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。（最新情報は公式サイトでご確認ください）

東京都現代美術館(3)

| 事業名 | 会期 | 概要 |
|-------------|----------------------|---|
| 「井上泰幸展」 | 2022年3月19日 ～6月19日 | 日本の映像史に重要な位置を占める「特撮(特殊撮影の略称)」領域を 通して大きな足跡を遺した特撮美術監督、井上泰幸(1922-2012)の個展 を開催します。2022年に生誕百年を迎える井上は、特撮のパイオニアである円谷英二の下で、「ゴジラ」(1954)から特撮美術スタッフの一員としてそのキャリアをスタートしました。井上の遺したスケッチ、デザイン画、絵コンテをはじめ、記録写真や資料、完成映像や撮影で使用したミニチュア、当時を再現した撮影セットなどを展示します。 |
| 「吉阪隆正展」 | 2022年3月19日 ～6月19日 | 同時代の社会や世界的な動向を踏まえ、館独自の調査研究で現代美術の多様な側面をクローズアップする活動のひとつとして、 建築家・吉阪隆正(1917-1980)の回顧展 を開催します。 ル・コルビュジェの弟子の一人として、日本に近代建築の思想を普及させた功績 で知られる吉阪は、建築の枠にとどまらず、教育者・登山家・冒険家・文明批評家としても多くの表現者に影響を与えてきました。本展覧会ではデッサン・図面・模型・写真・映像に加え、吉阪の ことば を紹介し、半世紀前に着想されたものとは思えぬ新しさに満ちた一連の思想に触れ、新たな未来を築くための契機とします。 |
| 「MOTコレクション」 | 2022年3月19日 ～6月19日 | 幅広い収蔵作品の中から、様々な組合せや新しいテーマによる展示を行い、コレクションの新たな魅力をお伝えします。 |

※この内容は2021年2月8日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。
詳細は東京都現代美術館広報担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1

電話 03-5245-1134 FAX 03-5245-1141

<https://www.mot-art-museum.jp>

【お問い合わせ受付】10時～18時(美術館開館日)

【開館時間】10時～18時

【休館日】月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、展示替え期間、年末年始

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、開館時間等を変更する場合がございます。(最新情報は公式サイトでご確認ください)